

「けい酸加里」で 高温に負けない強いイネづくりを 白未熟粒の発生軽減や収量維持に効果的

「くみあい けい酸加里肥料」は、作物に吸収されやすいケイ酸とゆっくり長効きする「く溶性加里」のほか、苦土・ホウ素・石灰・鉄などを含む肥料です。世界初の全量く溶性（緩効性）加里肥料として、40年以上にわたりご愛顧いただけてきました。「けい酸加里」の加里は、水には溶けず、根酸や土壌中の弱酸に反応しゆっくり溶け出すことが特長です。作物が必要な分だけ加里を吸収でき、生育に合わせて効率よく吸収されるので、無駄が少なく生育後期まで効果が持続します。

「けい酸加里＝水稻の倒伏軽減資材」というイメージをお持ちの方も多いのではないでしょうか。これはケイ酸（＝茎葉の強化）と加里（＝稈の強化）の相乗効果によるもので

す。今回は、倒伏軽減以外の効果、特にイネの高温障害に対する「けい酸加里」の効果を紹介します。

「けい酸加里」でイネの高温対策

イネの高温障害のひとつに白未熟粒（乳白粒など）があります。イネは登熟期に高温にさらされると、エネルギーを消耗して稲体の活力が低下し、籾へのデンプンの転流が阻害されて未熟粒が発生しやすくなります。

さまざまな高温障害軽減策が提唱されているなかで、今回は、「けい酸加里」の施肥による白未熟粒の軽減効果を紹介します。

ケイ酸は、イネが多量に必要とする養分で、強い茎・葉・籾づくりに貢献します。加里は「根肥（ねごえ）」とも呼ばれ、根張りを促進する効果があります。根は土壌中の養分はもちろん、水分の吸収にも必要不可欠であり、植物にとって最も大切な器官のひとつです。根張りがよくなったイネは、根からの吸水量が増えることで蒸散が維持され、稲体から余分な熱を逃



がすことができるようになります。高温ストレスが和らぐため、デンプンの籾への蓄積がスムーズに行われやすくなります。また、加里はデンプンの転流を促進する効果もあります。これらの作用により白未熟粒の発生軽減や収量維持が期待できます。

けい酸加里の使い方は？

水稻で田植えまでに施肥する場合は40～60kg/10 a、中間追肥の場合は20～40kg/10 aを散布します*。「けい酸加里」は水稻だけでなく、さまざまな畑作物にも使用できるので、まずは効果を実感していただきやすい果菜類、いも類、まめ類、ねぎ類、花きなどでお試しください。安定多収や品質向上に、「けい酸加里」をぜひご活用ください。

*：長効きするので、省力化の観点から田植えまでに施肥することをおすすめします

●問い合わせ先
開発肥料(株) 営業部
TEL.03-3350-0231

【開発肥料(株) 営業部】

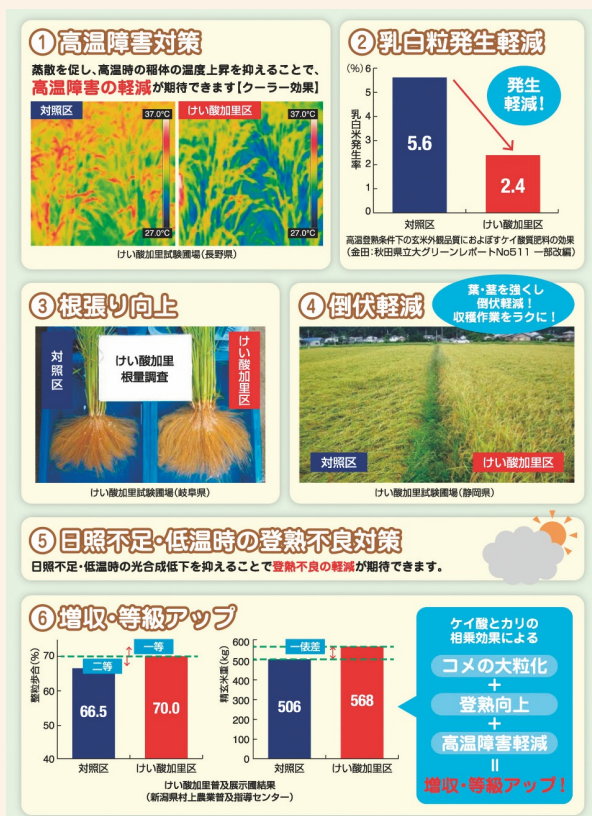


図1 「けい酸加里」の施肥により期待できる効果一覧

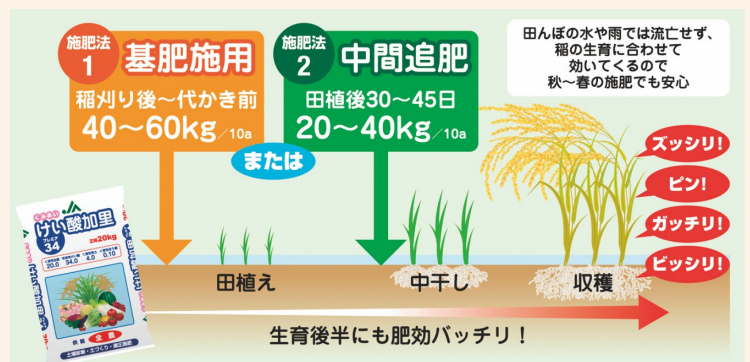


図2 「けい酸加里」の施肥方法